

海外現地職員からみた“福岡の今” ～釜山市との経済交流とインバウンド観光の現況～

ソウル駐在員事務所 洪承元

今年9月、ここソウル駐在員事務所から福岡へ視察に行つて参りました。今回の視察目的は、福岡市と韓国・釜山広域市の企業や団体・大学が主催する福岡・釜山フォーラム等への参加と、福岡における外国人旅行者（インバウンド）の実態に触れることにより、韓国とも関わりの深い“福岡の今”を知ることです。

今回は参加したフォーラム等の様子や、海外現地職員の視点から感じたことについてレポート致します。

○釜山広域市投資誘致説明会

福岡市内のホテルで開催された釜山広域市による投資誘致説明会は、釜山市からも徐秉洙市長が参加し、大勢の参加者でほぼ満席となりました。北東アジア経済の主要地域のひとつであり、物流、金融、映画産業などのハブとして生まれ変わりつつある釜山市の概要や、都市インフラを備えた投資地域としての魅力のアピール、最新の投資プロジェクトの説明、支援制度などに関するプレゼンテーションを通じ、福岡の企業へ熱心に投資誘致を行う釜山関係者の姿を見ることができました。



「釜山広域市投資誘致説明会の様子」

○福岡・釜山フォーラム

福岡・釜山フォーラムは両市の産学界のトップで構成される民間の提言機関です。日韓国交正常化50周年となる今年には開催10周年を迎え、「これまでの10年、これからの10年～福岡・釜山フォーラム10周年目の課題と展望」をテーマに、これまでの成果や今後の課題について発表が行われました。

都市の競争力が国家の競争力を牽引していくという時代に、福岡と釜山、二都市が経済・人的交流・人材育成等多様な分野で協力し合い、新たな提携によって両都市のビジネスをより活性化させようと熱く議論するフォーラムの雰囲気に感銘を受けました。

このフォーラムへの参加を通じて両都市間の相互投資の状況や2009年から始まった福岡・釜山超広域経済圏の推進状況、新しいビジネス協力への提案等、様々なテーマに接することができました。また、両都市の各分野を代表する企業や団体・大学等から見た両都市の姿だけではなく、福岡・釜山大学生未来フォーラムに所属する両都市の大学生の立場から見た経済・文化・教育分野についての提案や、彼らが実施した大学生へのアンケート結果等はとても新鮮で刺激になりました。

金融機関として弊行は第1回会議から参画しており、その10周年という節目に私も参加することができたことは感慨深いものでした。

○インバウンド実態視察

日本政府観光局（JNTO）と韓国観光公社によると、今年1～10月の訪日韓国人観光客数は過去最多だった2014年一年間の275万5,313人を超える322万6,600人（前年同月比43.7%増）を記録したとのこと。

日本旅行には様々な魅力がありますが、最近は円安・LCC路線の増加・免税制度などを背景に海外からの観光客が大幅に増加しています。

インバウンドの実態を視察するために訪れた博多港クルーズセンターは、クルーズ船でやってくる中国人観光客で大変混雑しており、入国審査を終えて出てくる中国人観光客や、駐車場で彼らを待つバスの数を見てマスコミの報道を実感しました。クルーズセンター担当者の説明によると、乗船客のおよそ7割は船で休憩し、残る3割は天神やキャナルシティ、博多駅等で買い物をしているとのこと。飛行機とは違い、船旅の場合は荷物の重量制限がないため、炊飯器等の家電製品はもちろん食品・医薬品などを、いわゆる“爆買い”する人も多く、当分はこのような状況が続くだろうとの見方がなされているようです。

弊行は、クルーズセンターに自動外貨両替機を設置しており、韓国ウォンもハングルの説明に従って簡単に両替できます。クルーズセンター以外にも、外国人観光客の多い太宰府とキャナルシティ博多内に自動外貨両替機を設置しています。太宰府支店前には自動外貨両替専用ブースを設置し、年中無休で銀行窓口の営業時間外でも12通貨の両替が可能です。また、弊行グループの九州カード株式会社は韓国で最も多くの会員数を有する新韓カードと提携し、キャナルシティ博多内で新韓カード発行のハウスカード¹による決済サービスを提供しています。このように利便性の高い決済サービスを提供することで海外観光客がショッピングをより一層楽しめるようにするなど、インバウンドビジネス支援を通じた地域活性化に貢献しています。



「クルーズセンター内の中国人観光客」

他には、韓国人に人気のキャナルシティ博多や天神地下街及びデパート、ドラッグストア、ビックカメラやドンキホーテ等も見学しました。以前から観光客の多い場所でしたが、ほとんどのお店に「Tax Free」の表示があり、爆買いする外国人観光客を多く見かけました。購入したお店ですぐに消費税を払い戻してくれるというとても良いシステムで、これは消費の活性化につながるはずです。韓国でもようやく2016年1月からこのようなシステムを導入すると発表されたところ（以前は空港の免税カウンターの長蛇の列に並ぶ必要がありました）。

また、爆買いする外国人観光客を見て、バイク便などを利用して荷物を宿泊先まで運ぶサービスを外国人観光客が利用できれば良いのではないかと思います。例えば、韓国の大手スーパーのロ

¹ ハウスカード：韓国国内向けクレジットカード

ッテマートのなかでも、特に外国人観光客の多いソウル駅店では、韓国系企業と提携した佐川急便がその場で受付し本国に送る国際宅配サービスを提供しています。このようなサービスがあれば外国人観光客の利便性が高まり、外国人観光客による消費はさらに増えるかもしれません。特にビックカメラやドンキホーテ、ドラッグストアのように外国人観光客がよく利用し、郵便局が利用できない時間帯まで営業する店舗では、重い荷物を持ち歩く必要もないので大勢の人たちに喜ばれるのではないのでしょうか。

天神のデパ地下は、今回の視察で楽しみにしていたことのひとつでした。美味しそうな和菓子やデザートが多さにまず感心しました。ここ数年、韓国では日本のデザートの人気が高く、日本の有名なスイーツがソウルに上陸したとの記事をよく目にします。博覧会や九州物産展などを通じ、九州の和菓子やデザートが紹介される機会がもっと増えれば良いと考えます。また、天神のデパ地下には福岡だけではなく全国の銘菓を揃えたコーナーがあることや、地域ごとの伝統的な銘菓が多いことなどはとても印象深いものでした。

ブログやツイッター、フェイスブックなどの SNS に敏感な韓国人は、旅行情報はもちろん買い物に関する情報も共有するケースが多く、そこで紹介された物に対し強い興味を抱くことが多いようです。写真が添付された買い物リストやロコミ等を見て実際に海外で購入します。私もネイバー（日本では LINE で有名な、韓国の IT 専門企業。その会社が運営する検索ポータルサイト）の「ネイルドン(네일동、日本旅行関連の情報を掲載するコミュニティサイト)」から情報を得ることがあります。ドンキホーテやマツモトキヨシでは、韓国人がよく購入する商品をまとめてパックにして販売するお土産コーナーを作っており、韓国人に大人気だそうです。韓国でも大勢の中国人を始めとする外国人観光客の趣向に合わせた販促やマーケティングが行われていますが、外国人観光客に対してよりきめ細かに、また親切に接していくことの大事さを、今回接客してくれた店員さんの笑顔からもあらためて実感しました。

今回の視察を通じ、活気に満ちた今の福岡を見て、また韓国人を始め外国人観光客のインバウンドの実態に触れ、私の中の福岡についての情報がアップデートされました。日本の中でも特に韓国と近い福岡に更に近づくことができました気がします。次回の休暇にはまた、福岡行きの飛行機に乗っているのかもしれません。

以上